

資源ごみ処理施設の処理フローと施設配置

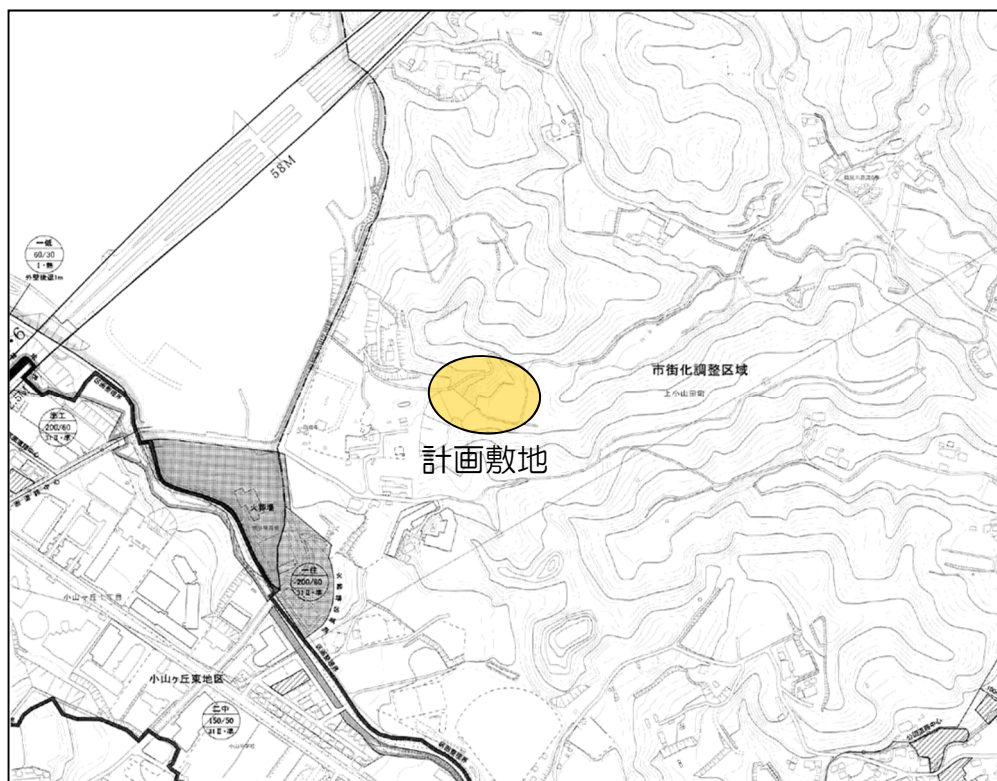
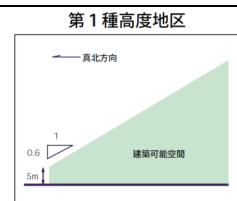
1. 資源ごみ処理施設の機能・規模・配置の考え方(案)【第2回地区連絡会資料より抜粋】

(1) 建築計画に対する制約条件

所在地	町田市上小山田町字十五号
敷地面積	約 20,000 m ² (計画面積)
地域地区	市街化調整区域
容積率	80%
建ぺい率	40%
日影規制 (※)	なし 市街化調整区域は、高さに関して第1種高度地区 (※) と同等の区域です。
都市施設	ごみ処理施設として今後都市計画決定を行う予定です

※日影規制：新設建物周辺地域の陽当たりの保護を目的とした法的規制。

※第1種高度地区：建築物の各部分の高さ(地盤面からの高さによる)は、当該部分から前面道路の反対側の境界線又は、隣地境界線までの真北方向の水平距離の0.6倍に5メートルを加えたもの以下とする。

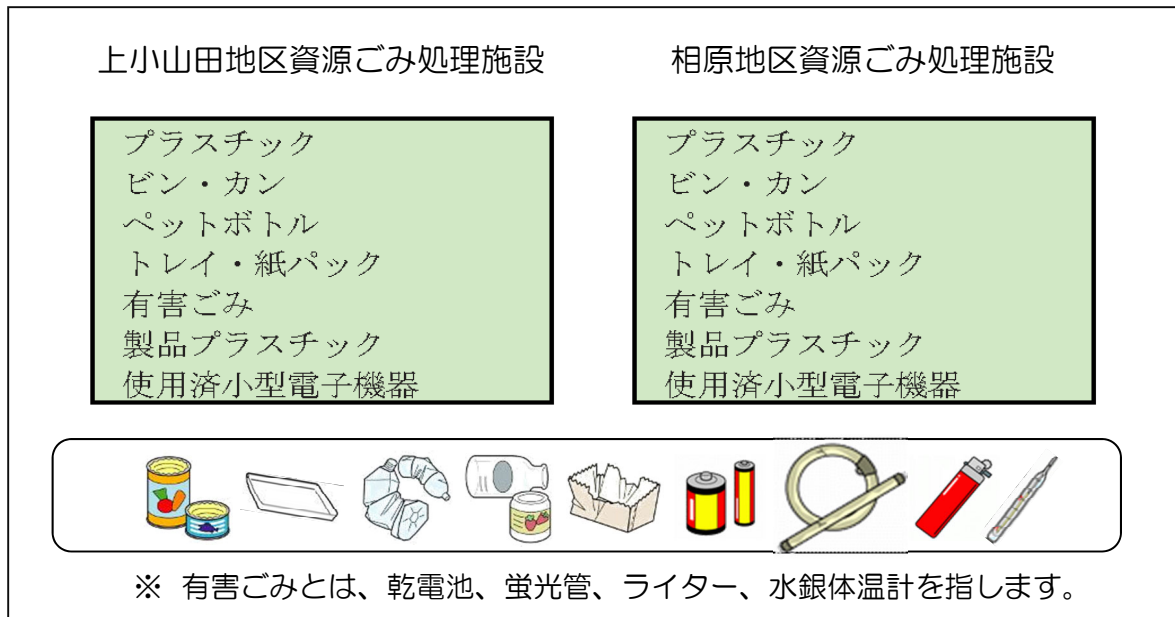


図：用途地域図

出典：町田市都市計画図(2015年3月)

(2) 取り扱う資源ごみの品目と施設の処理能力

- 基本計画検討委員会の結果を受けて、上小山田地区と相原地区で同機能・同規模の処理能力を有する施設を建設することを計画しています。



図：町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会報告書に記載している各資源ごみ処理施設の処理品目

- 上小山田地区資源ごみ処理施設の処理能力を以下の通り想定しています。

【上小山田地区資源ごみ処理施設の規模想定値】

施設の種類	施設規模 (トン/日)
容器包装プラスチック圧縮梱包施設	10.7
カン選別処理施設	3.2
ビン選別処理施設	9.4
ペットボトル圧縮梱包施設	2.9

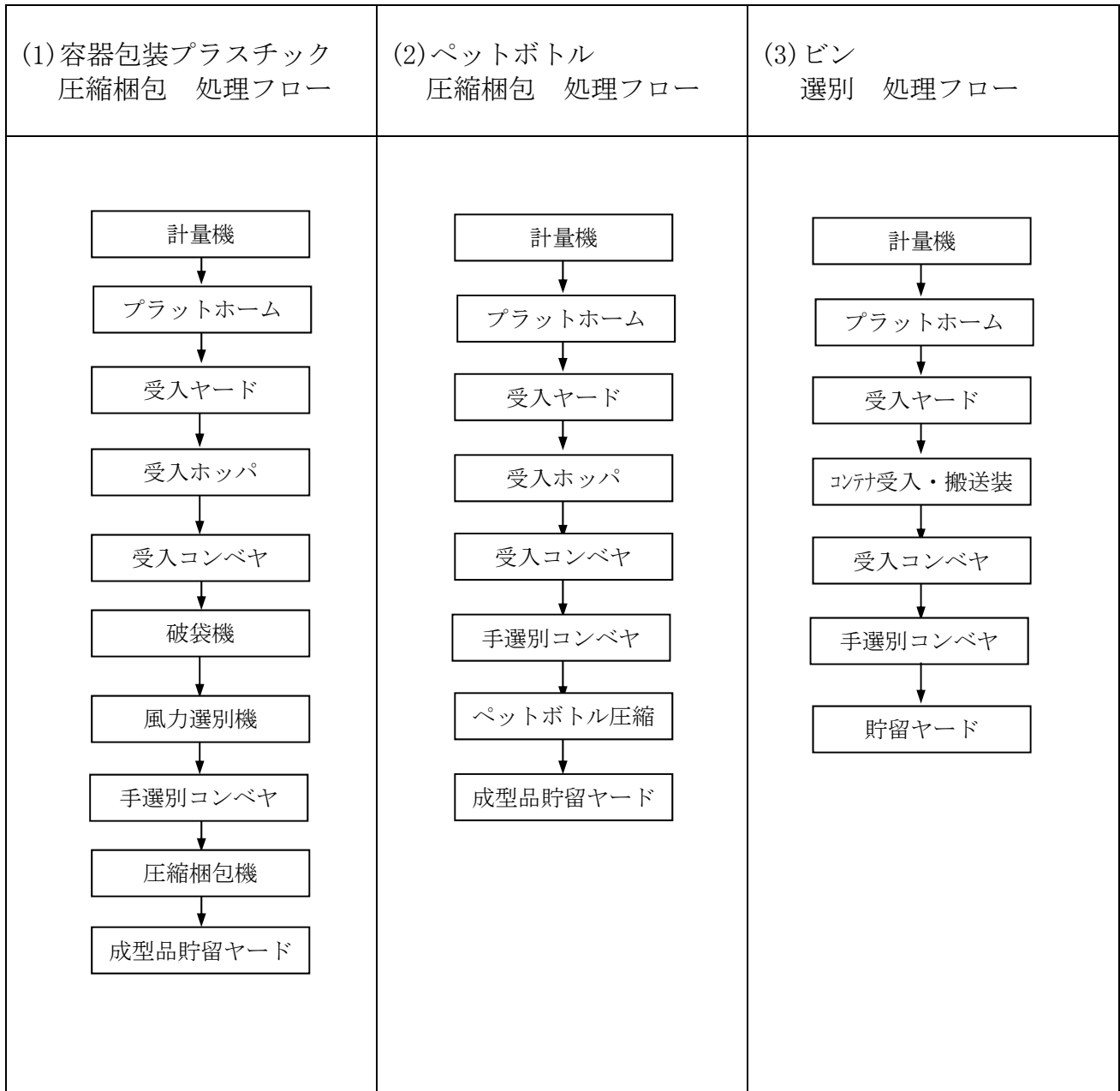
(3) 施設の規模

平面の規模	約 2,000 m ² ～約 3,000 m ² (約 40m×約 70m程度)
高さ	約 20m

2. 資源ごみ処理施設の処理フロー

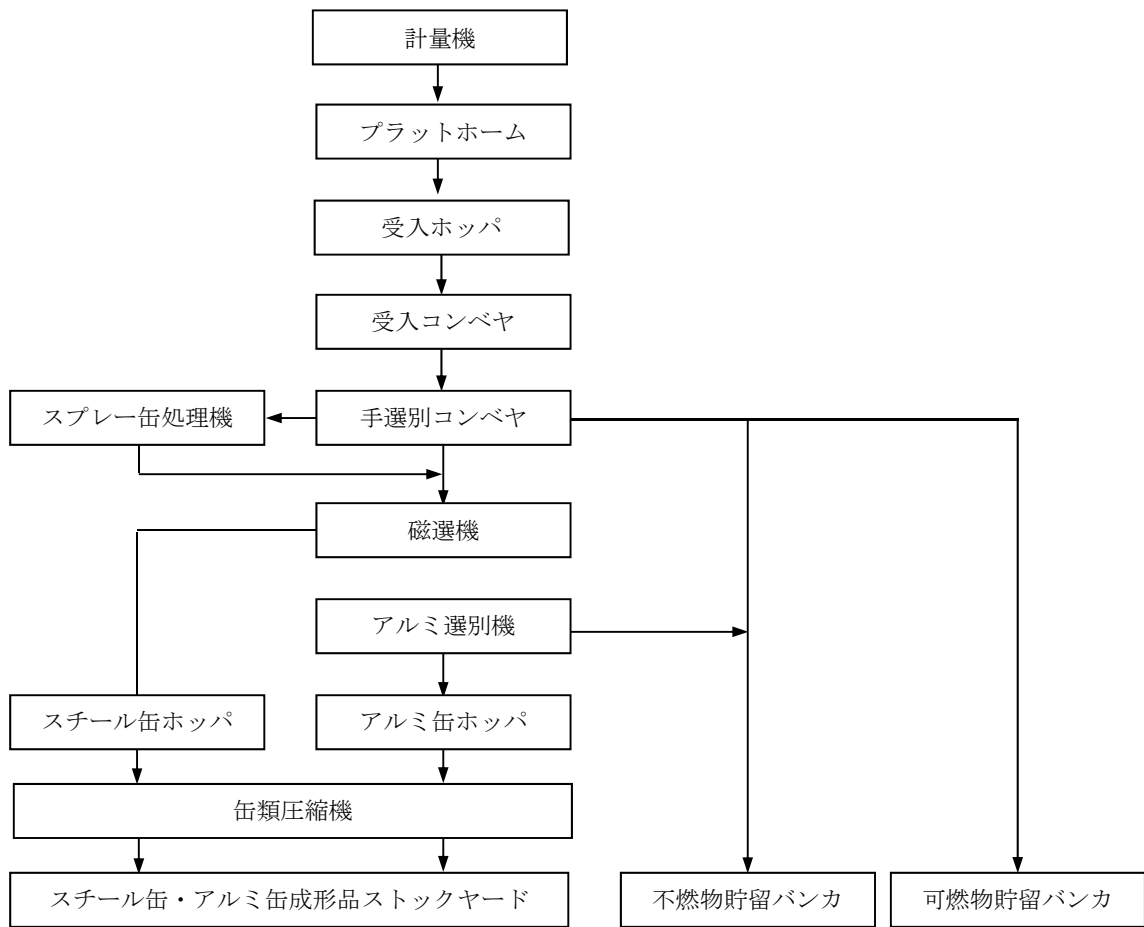
資源ごみ処理施設では、容器包装プラスチック及びペットボトル圧縮梱包、カン及びビンの選別等を行います。

具体的な処理フローは以下の通りです。



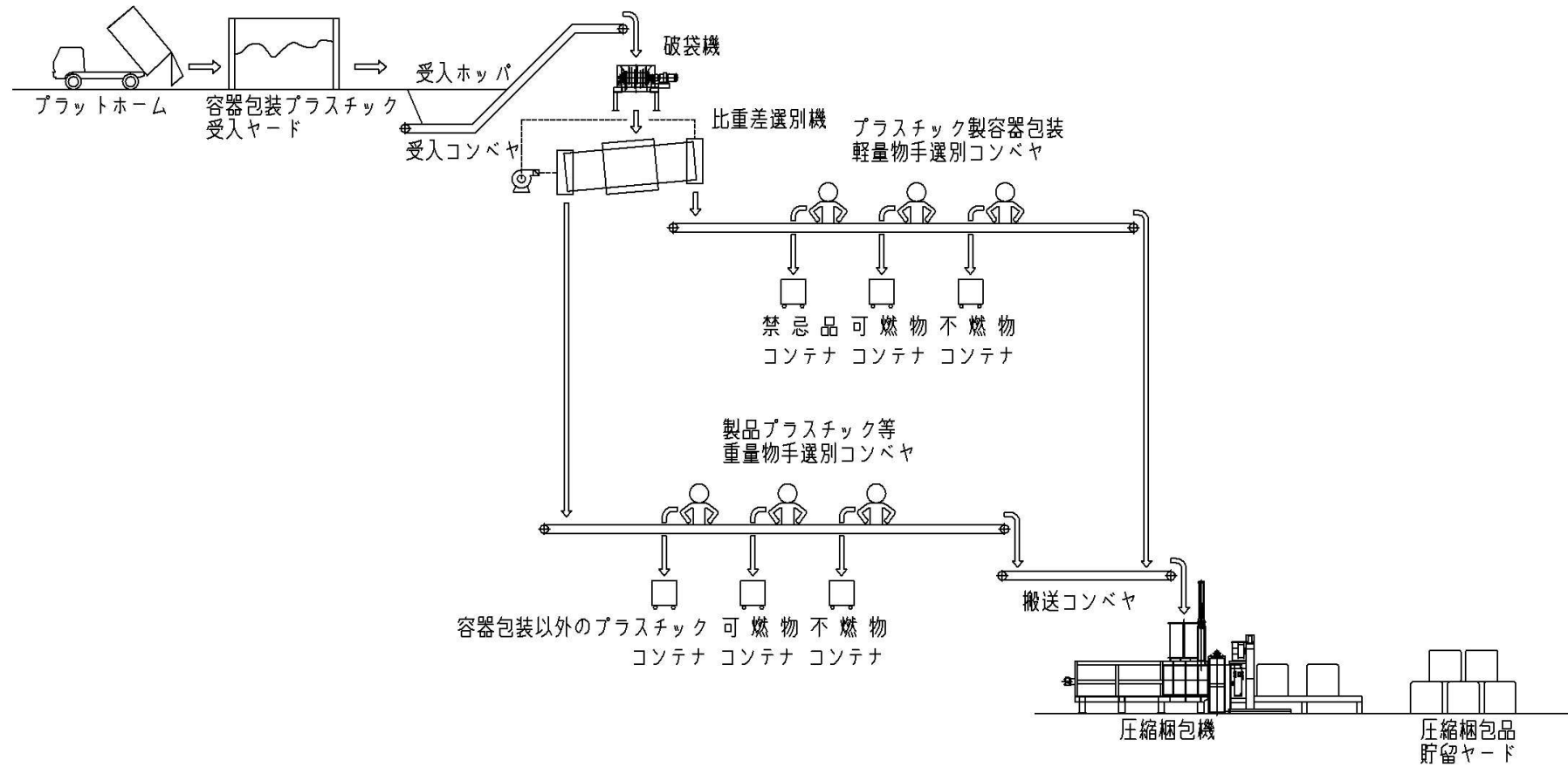
図：資源ごみ処理施設の容器包装プラスチック、ペットボトル、ビンの処理フロー
(具体的な選別のイメージは、P.5,6 参照)

(4) カン
選別 処理フロー



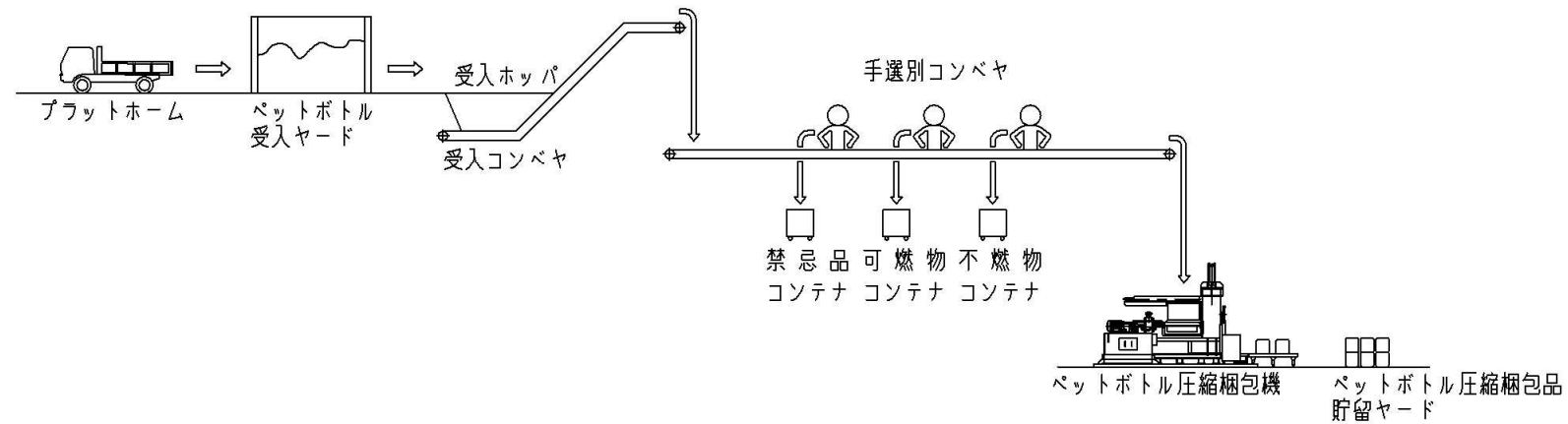
図：資源ごみ処理施設のカンの処理フロー
(具体的な選別のイメージは、P.7 参照)

容器包装プラスチック処理施設

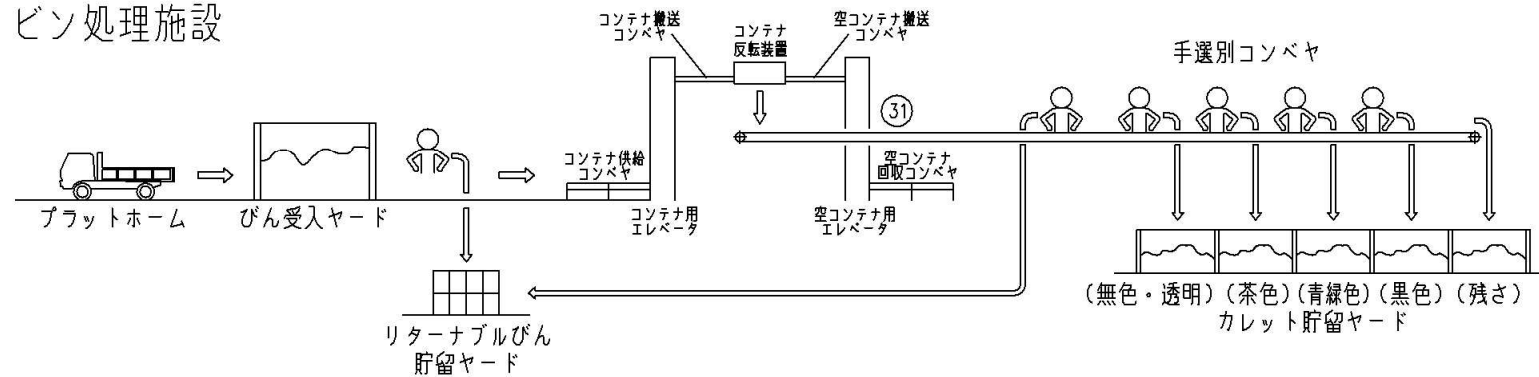


図：容器包装プラスチック 処理フローイメージ（参考）

ペットボトル処理施設

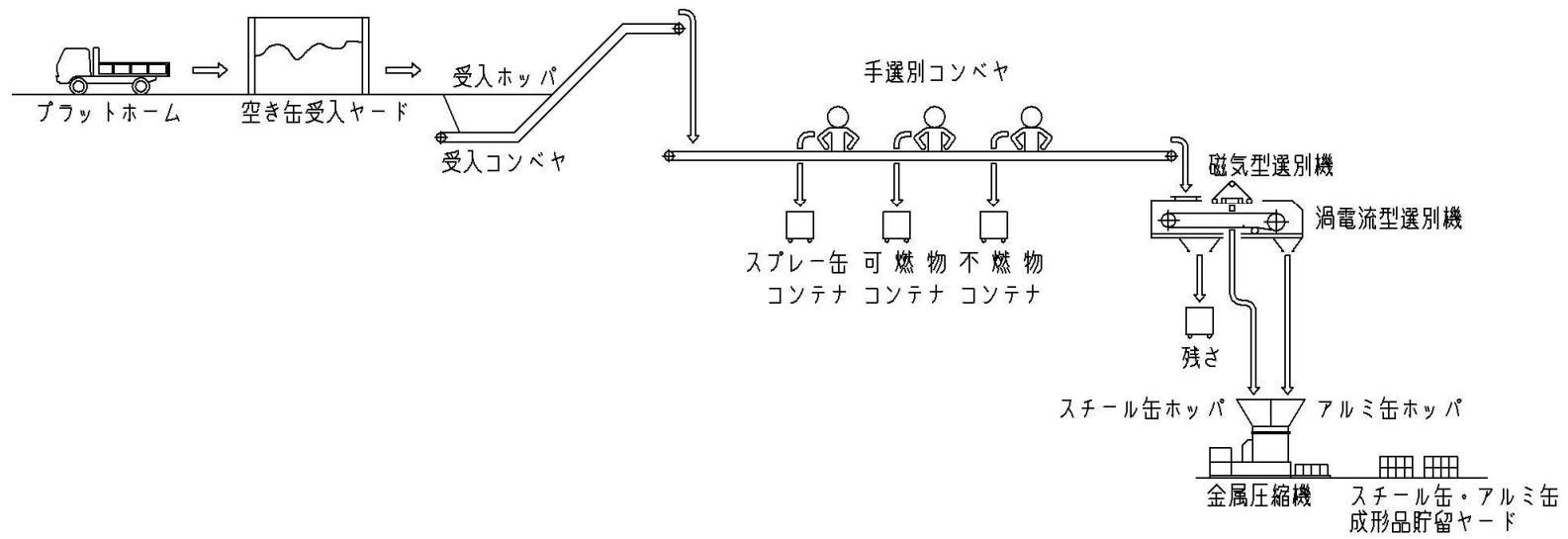


ビン処理施設



図：ペットボトル・ビン 処理フローイメージ（参考）

カン処理施設



図：カン 処理フローイメージ (参考)

3. 施設配置イメージ

(1) 敷地内の動線計画

本施設に搬入された資源ごみは、搬入車両にて受入ヤードに貯留された後、選別・圧縮され、成形品となります。成形品は、定期的に搬出車両で搬出され、資源化されます。

そのため、一般的に、敷地内については搬入・搬出車両が交錯しないように、施設を周回できる動線計画（一方通行）とします。

(2) 施設配置計画

本施設の施設配置は以下のとおりです。敷地については、現時点では模式的に成形として計画しています。

プラント設備である破袋機やコンベア等の設置のほか、ヤード等の上に管理諸室や見学スペースを設置すること、またその他付帯施設を整備することで、建物高さは概ね 20m となります。今後、必要な諸室とプラント内部の配置検討を行い、全体の建物ボリュームを決めていきます。

また、別途検討している付帯施設の内容・規模と合わせて、建物内諸室の配置に関するご意見をいただき、建物計画の検討を進めていきます。

